

団体戦注意事項

1、引率教諭（監督）について

- ・引率教諭（監督）及び選手は、日程表の指定時刻より早めに会場に集合し、引率教諭（監督）が本部に出席を届けてください。尚、集合場所は、テニスコートの外とし、引率教諭（監督）と一緒に出席してください。
- ・引率教諭の付き添いが無い場合は、出場できません。引率教諭は、受付から試合終了までチームの選手の監督・指導にあたっててください。

2、試合に際しての注意

- ・試合前のウォームアップは、サービス4本とします。自分の試合が近づいたら各自工夫して準備運動をすること。コート外ではボールを使った練習はできません。
- ・審判は主審1名、副審1名とし、対戦校から出すこと。原則としてドロワー番号の早いチームが奇数着ゲームの(DI, S3, S1)の主審を受け持つこととする。
- ・試合着はテニスウェアとする。Tシャツ、長ソフ、長ズボンでは、出場できません。(ウェア・用具についての規定をよく読んでください)
- ・テニスウェアの下に着るアンダーウェアは、OKです。またユニフォームの無い生徒は、学校のジャージでの出場を許可します。

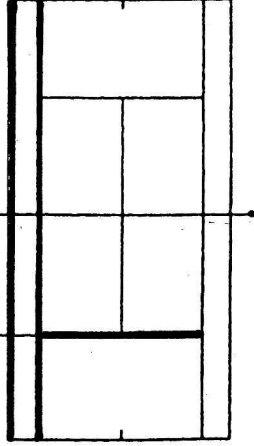
3、試合について

- ・ダブルスは登録した10人の中での2人で組んでもよい。試合順はD2、DI、S3、S2、S1で行い、学内の実力順に並べる必要はない。対戦校によりオーダーを組みなおすことができる。
- ・本部からオーダー表用紙を受け取り、あらかじめ記入しておき、指示があったら直ちに本部に提出すること。
- ・試合は、1セットマッチとする。6-6の場合は1-2ポイントタイブ레이크（7ポイント取ったら勝ち）を行う。初回戦は勝負がついた後も試合を行うが、他の試合は勝敗決定後打ち切る。
- ・ベンチコーチは、各コート1名とし、引率教諭（監督）は必ず入ってください。（2面展開の場合1面は、引率教諭（監督）、もう1面は、登録してある選手とする。ポイント間の拍手、「ナイスショット」までは認めるが、助言、指導はコートチェンジの時のみで、規定の時間内に限る。相手を傷つけるような発言、あるいはマナーに反する行為をしてはならない。選手はベンチコーチ以外の者からいかなる助言や指導も受けてはならない。何か問題が起こった場合には、顧問同士で話をする。けいれんその他の自然的体力消耗による休憩は認めない。応急処置が必要な場合はレフェリーの許可を受けること。勝手に選手がコートを離れることはできない。ボールの判定については審判に従うこと。カウント、ルールの解釈についての異議、質問は申し出てもよいが、選手、ベンチコーチに限る。主審は試合終了後、試合ごとに結果を本部に報告すること。ボールは、審判台の下に置いてあるボールを使用すること。

4、主審・副審について

- ・主審は図の細線の部分について判定する。副審は図の太線の部分についてのみ判定する。
- ・アウト（フォルト）の場合は、はっきりと選手と観客にわかるように大声でコールする。ジュエスチャーだけではいけない。
- ・副審はサービスの判定が終わったらポストの位置まで戻り、ラリー中のボールを判定する。
- ・副審によるオーバールールはありません。自分の受け持ちの線をきちんと判定すること。

サービス時 ラリー中の位置



太線の部分が副審の受け持つところです。

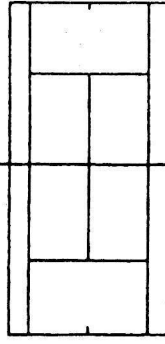
5、ボールパーソンについて

- ・各校出来るだけ教名用意してください。ボールパーソンはテニスシューズを持参すること。また選手と異なる服装（学校の体育着など）が望ましい。
- ・ボールパーソンは1コート シングルスのとき4名、ダブルスのとき2名とし、図の位置につくこと。後ろの者はフェンスぎわまで下がっていること。
- ・ボールパーソンは審判の判定（アウト、イン）について、たとえ審判から聞かれても答えてはならない。審判もボールパーソンに聞くようにならない。
- ・ボールパーソンは応援することでもできない。

(B)

(B)

注 B₁ B₂はシングルスのときだけとする。



ネット近くの者はクラウチング（しゃがむ）がのぞましい。

(B)

(B)

6、応援について

- ・サーバーが位置につこうとしたら、静かにプレイに注目すること。
- ・インプレイ中は音や声を出さないように注意すること。
- ・エースショットについては、拍手や声援をして選手を盛り立てるようにしましょう。
- ・相手選手や審判について、とやかく言うこと（野次）は慎むこと。
- ・コート外からのアドバイスは禁止である。
- ・試合開始と終わりの挨拶のときは起立し、拍手でたたえらるようようにしましょう。